



臨床医がすすめる図書館資料 —外科学基本書—

中野 博重

Sabiston textbook of surgery : the biological basis of modern surgical practice. 17th ed. / Courtney M. Townsend Jr. [et al.]. Elsevier Saunders, c2004

- 1936年の初版刊行以来、外科学の基礎から最近の知見までを網羅した必須テキストとして現在まで広く用いられている。

本書は150名以上の編集執筆人のうち約半数が新しくなり、「外科学倫理」「ロボット技術の応用」など新しいトピックを扱った章を加えて全面刷新された。

外科手術標準手技アトラス / William V. McDermott著 ; 石川浩一監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1986

- 一般外科領域で、各々の手術について最もスタンダードな術式を取り上げ、多くの図を用いて解説されている。外科医として手術術式をマスターする上に必要な書である。

ベッドサイド外科基本手技マニュアル : ジョンズホプキンス病院研修医ガイド / ハーバート・チェン、[ほか] 編著 ; 二川俊二監訳 医学書院 MYW, 1997

- 外科の研修医を対象として、外来やベッドサイドで行う基本的な外科的処置の手技を簡潔にまとめたマニュアルである。

標準外科学 / 松野正紀, 北島政樹, 加藤治文編集 第10版. 医学書院, 2004

- 本書は1976年に初版を上梓して以来、ほぼ3年ごとに改訂を重ね、第10版が刊行された。医学生や若い外科医がベッドサイドで実践的な知識を必要としたとき、本書が外科学教科書として重用される。内容は basic surgery から up-to-date まで、従来の形態学偏重の外科学から、できるだけ生理や生化学的感覚を盛り込み、機能的外科学を重視している。新しく「外科とリスクマネジメント」、「卒前臨床実習およびコアカリキュラム」が追加されている。

NEW外科学 / 出月康夫, 古瀬彰, 杉町圭蔵編集. 改訂第2版 南江堂, 1997

- 最近の外科学は急速な進歩を遂げつつあり、医学生や若い外科医が望む教科書が必要になってくる。本書は最近発達してきた内視鏡的治療（内視鏡下手術）や interventional radiology, 低侵襲性（minimally invasive）外科治療を含めた最新のテキストである。

新臨床外科学 / 武藤徹一郎 [ほか] 編集, 第3版. 医学書院, 1999

- 豊富な情報をコンパクトに、診察のコツとピットフォール、検査のベストチョイス、病態理解のキーノート、診断へのアプローチ、治療のストラテジー、をまとめた教科書である。

乳癌手術アトラス／霞富士雄著. 医学書院, 1998

- 乳癌手術のすべてを、小さなコツや pitfall に至るまで、著者のノウハウと英知をすべて傾注した乳癌の聖書である。

外科分子病態学／小川道雄, 齋藤英昭編集. 医学書院, 1999

- 本書は、外科医が治療に当たっている病態を、最新の分子生物学の視点から見直した新しい外科テキストである。従来の臓器中心の記載から、横断的に各病態を分子、遺伝レベルで解説した、若い外科医、研修医、大学院生のためのテキストである。

臨床侵襲学：臨床に生かす侵襲学のすべて／小川道雄, 齋藤英昭編集. へるす出版, 1998

- 近年生体が侵襲に際して、それを伝えて生体反応を惹起するための情報システム、すなわ

ちサイトカインや接着分子による免疫制御機構の解明が進んできた。このように分子生物学を応用し、手術、外傷、感染、炎症、腫瘍、移植のメカニズムを追及したテキストである。

外科レジデントマニュアル／西尾剛毅編集. 第3版. 医学書院, 2001

- 本書は外科レジデントのためのマニュアルである。術前術後の患者管理に主眼を置き、術後の合併症の対策、救急外来での処置などについて具体的に解説されている。

ネッター解剖学アトラス／ネッター著；相磯貞和訳 南江堂, 2004

- 外科医にとって解剖書は必携である。本書は、人体の構造を立体的にカラーでイラストされ、手術時に際して解剖を理解する上には最適なアトラスである。